

(様式第4号)

令和4年度 第2回上田市子ども・子育て会議 会議概要

1 審議会名	上田市 子ども・子育て会議
2 日時	令和4年7月28日 午後1時30分から午後2時50分まで
3 会場	ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 多目的ホール
4 出席者	酒井会長、長谷川副会長、浅川委員、阿部委員、飯島委員、表委員、小池委員、下村委員、杉原委員、高井委員、竜野委員、土屋委員、西澤委員、宮下委員、山崎委員
5 市側出席者	室賀健康こども未来部長、小須田健康推進課長、水野子育て・子育て支援課長、中村保育担当係長、武捨保育担当係長、宮下放課後こども育成係長、遠藤母子・精神保健担当係長、山口障がい者支援担当係長、高橋子育て・子育て支援担当係長、渡辺子ども家庭福祉担当係長、高寺発達相談センター次長
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	1人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和4年8月3日

協 議 事 項 等

1 開 会 (水野子育て・子育て支援課長)
2 あいさつ (室賀健康こども未来部長)
3 人事通知書の交付
4 委員自己紹介
5 事務局紹介
6 上田市子ども・子育て会議について【資料1】 事務局から説明 質問・意見なし
7 会長・副会長の選出 立候補なし 委員から事務局案の提案あり 会長：酒井委員、副会長：長谷川委員 委員賛同により承認
8 議事 (1) 第2次上田市子ども・子育て支援事業計画について【資料2】 事務局から概要説明 質問・意見なし (2) 子ども・子育て支援事業実施状況等 (令和3年度及び令和4年度)【資料3】 事務局から概要説明 質問・意見

(委員)

6 ページ 29 番職員配置の充実について。

3 歳未満児の入所希望が多いため、今までと比べ多くの保育士が採用されている。過日の書面会議の小規模保育所の新設について委員の皆さんからご意見があったが、少子化が進み、待機児童をなくすことはいいが、現時点で足りないからといってすぐ増やすことがいいのか。公的な経費を使って採用し、長期的な展望に立って適正な配置をどのように考えているのか。小規模保育所、その他を認可しても保育士が足りない状況にある。市が多くを採用してしまうと、他の私立等の保育園幼稚園が採用できなくなり、職員がいないと子供たちを預かれないということになるので、十分気をつけて採用をお願いしたい。養成校の生徒が地元で適正に採用される状況を市が中心になってやっていくことも大事だろうと思う。

(事務局)

今年度以降、小規模保育事業所については、3 園新設の予定で調整している。現在 3 歳未満児で待機児童が発生している状況なので、まずはその待機児童が抑制できるというところで 3 園設置を検討しているが、今後の設置に関しては、就学前児童数、3 歳未満時の待機児童の状況を踏まえながら、慎重に、十分検討したうえで考えていきたい。

(委員)

32 ページ 158 番、保育料の無償化について。

コロナ禍もあり都会から移住された家庭が多くいる中で、移住前の自治体では 3 歳未満も無償化だったという話を聞く。少子化が進み、3 歳以上児だけ無償化でいいということではなく、子育てするなら上田市ということを銘打っているのだから、2 歳児、1 歳児までの無償化をぜひ前向きに考え欲しい。

3 歳以上と 3 歳未満に子どもがいて、さらにお母さんが妊娠して育休をとった場合、3 歳未満児は続けて保育してもらえず退所しなければいけない。これから生まれてくる子の産休育休であって、今いる子の生活を変えてしまうような政策どうかと思う。引き続き入所できるような体制を早急に考えてほしい。

(事務局)

3 歳未満児については市独自の軽減措置もしているが、無償化という対応はしていない。いただいたご意見や他市の状況も踏まえて検討していきたい。

3 歳未満児の方の継続的な保育がされていない状況について、出来る限り保育の継続がされるような対応をしているつもりではあるが、そういった事例があるという話があれば、できるだけないような対応をしていきたい。

(委員)

今指摘された事柄というのは、幼稚園と保育園との制度上の違いがうまくすりあっていないところで起きている問題で、かなり個別ケースでは生まれてくる。産休に入ったら保育園でもう預かってもらえなくなってしまうという相談は、そういう制約がない幼稚園の方にくる場合がある。上田のような規模の都市であれば、そういう実情に沿いながら制度上齟齬があるような部分を独自の施策できめ細かく埋めてい

くという姿勢のもとに上田の市政が進んでいくととてもいいと思うので、今後の課題として受け止めてほしい。

(委員)

上田市は手ごろな大きさなので、共に何か話をしながら変えていくとか、すり合わせていくということがもっとできないかと思っている。今は待機児童、これからは子どもがない、あと保育者の質の問題もある。その辺を一体化して幼保認定こども園や認可外園、その垣根を越えてもっとざっくばらんに話をする機会が今後可能性があったら作っていったらと思う。

(委員)

(前述の内容の訂正) 新しい子を出産するにあたりお母さんは会社を辞めた。認定こども園では、3歳以上の子どもは1号認定で入れてそのまま残れたけれども、3歳未満の子どもは1歳、2歳と保育園にいたのにやめなければならない。これは子育てに対して冷たいという意見。育休をとっていけば問題なかったのかもしれないが、会社が雇ってくれなかったという事例。

(事務局)

育休をとれば継続して園で預かる調整をしているが、辞めてしまった場合、どうしても保育園から家庭の方に引き取っていただいている。いただいたご意見について保育課で検討したい。

(委員)

(児童発達支援の現状を踏まえて) 現在無料で外来教室をしているが、コロナの関係で10組のところ5組で分散してやっているの、15ページの68番発達相談事業の今後について、フォローアップ教室や個別相談を強化していくという流れに期待しているので、連携をとりながらすすめていきたい。また卒園する子どもの保育集団ができあがっているところに移行していくというのは難しい事例も多く、比較的公立保育園は間口が広いという現状があるが、やはり保育士の確保や、質と量というところは課題と感じる。お母さんたちも保育園に移行できなかつたらどうしよう、という悩みを抱えて入園する方もいるので、スムーズに必要なタイミングで児童発達を利用して、必要な時期に地域に戻れる、入園できる、といういい流れができていくといい。これから、こども・家庭庁の創設にあたって、障害がある子もない子も一体化してくるのは良いことと期待している。入園するお子さんはどんどん年齢が低くなっていて、発達支援が必要なお子さんが増えている現状で、早い時期の支援というところで希望がある。連携をとりながらすすめていきたい。

(事務局)

こちらの発達相談センターについては、相談件数が増えてきているという部分と、一昨年、4ヶ月健診時にOT相談を始めて、早い段階から発達に特性のあるお子さんについて支援をしていくことで、親御さんの理解という部分もできるだけ早期に発見し、早期に支援していくということを取り組んでいる。大きくなってから特性が強くなるという方もいるが、できるだけ早い段階で支援していきたいということで事業を進めている。

(3) 量の見込み及び確保の方策に係る令和3年度の実績【資料4】

事務局から概要説明

質問・意見なし

(4) 第2次上田市子ども・子育て支援事業計画に関する中間年の見直しについて【資料5】

事務局から概要説明

質問・意見

(委員)

現時点では調整を行って何とか待機児童が出ていないが、こういう状況はまもなく終わって、定員に欠ける園が出てくるのは目に見えている。入所申請は、保育園と認定こども園のは11月のはじめに行われているが、幼稚園協会の方は9月1日になっている。11月の保育園や認定こども園の申し込みで入れなかったことを考えて、9月に幼稚園を申し込むために3歳以上児のお子様を持つお宅では今の時点で見学などの申し込みをして悩んでいる。同時点での申し込み時期を考えられないものか、保育園の2号3号がだめならば、1号の子どもだけで幼稚園は9月1日というような形をとれないものか。ぜひ行政で保育園認定こども園と幼稚園との間で保護者が困らないような入園体制をつくってもらえるとありがたい。

(事務局)

保育課に持ち帰り検討したい。

(委員)

同じような心配は幼稚園側でもしている。9月から入園手続き開始ではあるが、実態は保育園が決定しないと幼稚園は決定しない。保育園に入れなかった場合に幼稚園を選択するという動きがかなり強くなってきていて、幼稚園側としてもなかなか入園決定ができない状況がある。今提案として同じ時期にそれぞれ調整しながらやったほうが合理的でなはいかという指摘があったが、幼稚園連盟として話し合っていないものの、個別ではそういった苦労話をたくさん聞くので、調整できるものであればやったほうがいい、ぜひそういう方向で上田方式を作っていくほしい。

(委員)

少子化を受け、子づくりのところの話について、市としてこれからやるべきことをどんなふうに考えているのかを知りたい。日本全体の平均で14人の新生児のうちの1人は生殖補助医療で生まれている。生殖補助医療とは、卵巣から卵をとり、それを顕微受精、体外受精し、そこで受精卵をつくりその中で育てていって子宮に戻す、胚移植という手段。それが今年の4月から保険適用になった。しかしながら保険の医療施設は上田市内になく、近隣に2か所のみになってしまう。今までも不妊症に対してお金の補助はやっていたと思うが、保険医療が採用されていて、これからどのようにやっていくのか、そのためにはやはり大学医療が背景にないとどうしても追いつかない。超高度な医療になるので、そういったことが上田に誘致できるといい。これから少子化が進むと幼稚園だけでなく、お店のお客さんも減り、税収も減っていく。子どもを増やす手段として国がやっている保険医療をどのように利用していくのか、ということもぜひみなさんの協力があってできればいいと思う。

(事務局)

不妊治療が保険適用で大きく制度が変わってきているという状況。実際に今年度動き始めているが、どの程度保険対象になるかというところはみえない部分もある。不妊治療にかかるお金は高額な部分もあるので、昨年まで補助の対象になっていた方には引き続き補助を続けていきたい。特に回数の制限や年齢の制限があるので、対象から外れた方に対して市の方で補助することで、実際に妊娠につながるような例も何件かできてきている状況もあることから、そういったところも続けながら、こういった補助の仕方がいいのか検討しつつ引き続き妊娠につながるような支援をしていきたいと考えている。

(委員)

43歳を超えても補助してもらえる体制か。

(事務局)

超えても補助対象としている。

(委員)

明石市では財政難なときこそ子どもにお金をかけ、それで子どもが増えた、人が増えたという話もあったので、ぜひ予算を取っていただいて子どもに使ってほしい。

(2) その他

健康推進課から多胎妊婦健康診査支援事業について
電子母子手帳「うえだっこ」について

・次回日程

11月7日月曜日午後1時30分から中央公民館3階大会議室

7 閉会